

# Eureka XIII

六年制通信 No.10 令和7年6月6日(金)号

## 言葉は欠けている

君たちには事あるごとに豊かな語彙を持つように言ってきました。たくさんの言葉を知っている人は、何を考えるにしてもその思考は語彙の少ない人よりも豊かだと思うからです。また、明晰な言葉をたくさん持っている人の方がそうでない人よりやはり明晰に考えることができると思います。ずいぶん前になりますが、何に対しても「やばい」と表現することが流行したように思います。マイナスのことだけでなくプラスのことに対してもとにかく全てが「やばい」らしいのですが、一つの言葉に多くのニュアンスを込めるのではなく、状況に合わせてできるだけ的確に言葉を選べるようにならないといけません。よく大人になるということは使える言葉が増えることだと言われます。私もそう思います。これ、身近なところでは、例えば色を表す言葉もそうですね。子どもの頃に誰でも色鉛筆を使いますが、あそこにある「赤」「青」「黄」「緑」を大人になってもそれぞれの色の名として使い続けるのは、間違っていないけれど面白くないですね。成長していくにつれ「蘇芳(すおう)」「紅」「浅葱(あさぎ)」「利休鼠」「鶯」「山吹」「萌黄」「藤」など、自然と結びつく美しい言葉を知っていくはずで、原色だけではない微妙な色合いを美しい言葉に乗せて、北原白秋は「城ヶ島の雨」で「利休鼠の雨がふる」と書きましたが、詩人だけでなく、私たちもこういう表現を日常の言葉として使えるといいですね。

さて、しかし、実は言葉は不正確なものでもあります。一つの言葉の表す範疇が大きかったり小さかったりしますからね。厄介なことに人によって違ったりもします。また、例えば自分の気持ちを表そうとしても、言葉を選んだ瞬間に他の言葉を捨てることになるわけですから、なかなか自分の気持ちすら正確に伝えることはできません。豊富な語彙を持つことは大切です。持てば持つほど表現の正確さが増すことは間違いないと思います。それでも、いくら豊富な語彙を持ったからといって、自分の感情を100%正確に表すことはできないと思います。言葉は不完全なものであると知ること必要です。人の感情を大雑把に喜怒哀楽で表現することができますが、「哀しい」が表す範疇が大きすぎて自分の抱いている「哀しみ」を「哀しい」という言葉が正確に表しているとは言えない場合もあると思います。君の「哀しみ」の中には少しの「悔しさ」や「妬み」や「憤り」や「諦め」などが入っているのではないか。彼の「怒り」にはひょっとしたら「後悔」や「絶望」や自分に対する怒りをも含んでいるのではないか。それらすべてを正確に表すことはできないのです。しかしまた、私たちは言葉に表れない部分を勝手に補って読んだり聞いたりしています。ですから、究極的に誤解のな

い会話も誤解のない読書も恐らくないのではないか、そう思いませんか。これ、言葉の不備のせいですね。それでも私たちは言葉を使って生きなくてはならないのですから、豊かな語彙でできるだけ正確に言葉を編んでいきましょう。

福澤諭吉は「徳教は目より入りて耳より入らず」と言っています。福澤も言葉が常に誤解を伴う存在であることを知っていたわけですから。言葉は正確に伝わらないから耳から学ぶよりも人の行動を見て目から学ぶ方がよい。道徳のようなものも、教えようと思ったら口で言ってもだめで実践してそれを見せることでしか教えられないというのですね。英語にも **Actions speak louder than words.** という有名な言葉があります。直訳すると「行為は言葉よりも声高に話す」ですが、要するに「言葉より実践」ということです。説教よりも実行の方が有効であることを承知しておきながら、一方で福澤は多くの著書を残しています。言葉によって相手の心に訴えかけることの大切さも十分わかっていたということでしょう。

ただ、私はいつも思うのですが、耳から入ろうと目から入ろうと、聞こうとしない者見ようとする者には何も聞こえず何も見えません。聞こうとする者には聞こえ、見ようとする者には見えるのです。聞こうとする者にだけ聞こえるものがあり、見ようとする者にだけ見えるものがあると言った方が正確でしょうかね。もちろん、勉強でも仕事でも、学ぼうとする者にだけ学べるものがあるわけです。これを支えるのは心の働きです。「求めよ、さらば与えられん」という『聖書』(マタイによる福音書第7章7節)の言葉は至言だね。『聖書』は心の持ち方よりも「求めよ」という行動を説いています。これもまた、非常に正しいことのように思います。

#### 今週のおすすめ

・梨本香歩 『西の魔女が死んだ』 (新潮文庫)

中学生で不登校になった少女まい。初夏の一か月を大好きな祖母の家で過ごすことに。ところで、このおばあちゃんはイギリス人で魔女の血を引いている。そう孫に明かすわけです。で、まいは祖母の指導の下で魔女修行をすることになるのですが、まず基礎トレーニングとして「早寝早起き。食事をしっかりと、よく運動し、規則正しい生活をする」を課せられます。もっと、何というか、精神修行のようなものを期待していたまいはがっかりしますが、それでも魔女の言うことを聞きます。イチゴを摘んでジャムを作る、洗濯をする、ベッドメイキングをする、朝起きたら鶏の卵をとってくる、ちゃんと勉強もする、そして大好きな祖母といろんな話をする。そのような生活をしているうちにまいの心は変化していきます。

近くに住む、まいから見たら気色の悪いゲンジさんのことで祖母と口論になり、まいは頬をぶたれます。そのしこりが消えないうちにまいは祖母の家を離れ、それから二年、西の魔女の訃報に接します。魔女の家でゲンジさんに対するわだかまりも消えます。あとは、魂が肉体を離れるということをまいに分かるようにしておくからねと言った魔女のあの約束だけ。さて、まいはそれをどういう形で知るのでしょ

BGMは Olivia Newton John の *Don't Stop Believin'* でした…。